



ReadMe for Wyse Virtual Desktop Accelerator 1.5

対象製品: Wyse Virtual Desktop Accelerator 1.5

ダウンロードモジュール

サーバーコンポーネント: WYSE Virtual Desktop Accelerator Server.msi

Window プラットフォーム用クライアントコンポーネント(MSI):

WYSE Virtual Desktop Accelerator Client.msi

ReadMe の履歴:

Version	日付	変更内容
1.00	2011 年 4 月	初版

シンクライアントシステム利用/導入にあたる注意事項

シンクライアントシステムは、様々なサードベンダーコンポーネントとの組み合わせで実現されます。アプリケーション、ソフトウェア、サーバー、ネットワーク、周辺機器、各種設定の組み合わせにより実現されます。このため、システム導入前に必ず利用/導入するのと同じ環境/組み合わせ(ソフトウェア、ハードウェア、各種設定、ネットワーク環境)での十分な検証を行い、導入に必要な全ての機能/パフォーマンス要件を満たしているかを確認する必要があります。

本 ReadMe では、Wyse VDA ソフトウェアで対応/テスト済みの各種サードベンダー製品情報を掲載しております。これは、Wyse 社での基本的なテストを実施したことを示しており、各製品の全ての機能、その他製品や環境との組み合わせによるシステムインテグレーション上の動作保証が行われるものではありません。

特定システム環境(ハードウェア、ソフトウェア、各種設定、ネットワーク環境等)下で Wyse 製品に関連する問題が発生する場合、Wyse 社では、ハードウェア/ソフトウェアの観点から調査を実施させていただきます。ただし、シンクライアントシステム、VDA ソフトウェアと関連アプリケーションの構造上、もしくはサードベンダー製品/環境との関連性により、対応ができない場合があります。この様な場合、Wyse 社製品内でのワークアラウンド(回避策)やシステム設定変更などでのご対応をいただく場合がございます。システム導入前の各種製品/環境とのインテグレーション試験では、十分な検証が必要となります。

概要(目次)

- Version 1.5 における追加機能
- インストールコンポーネントの詳細
- 対応プラットフォーム
- 対応ネットワーク環境
- 制限事項



Version 1.5 における追加機能:

本リリースにおける追加機能を下記に示します。

1. 遅延速度に対するパフォーマンス向上

約 40msec の遅延速度から VDA の高速化処理機能での画面転送処理が早くなります。

2. 暗号化/圧縮化サポート

VDA 独自の暗号化/圧縮化を実装しました。これにより、従来の VDA 以上のパフォーマンスを提供することが可能となります。

注意: パフォーマンス/処理は、ネットワークやシステム環境、利用する画面操作によって異なります。導入時にパフォーマンスの向上を図る場合、実際の導入環境に合わせたベンチマークテストや設計を行ってください。

インストールコンポーネントの詳細:

下記表に、各インストールコンポーネントのソフトウェアスペックの情報を記載します。

サーバーコンポーネント

ホストオペレーティングシステム上にインストールするサーバーコンポーネントのスペックを下記表 1 に記載します。

表 1. Windows プラットフォーム用サーバーインストーラ

コンポーネント	VDA サーバーインストーラ
Version	1.5.2.14
Build File Name	WYSE Virtual Desktop Accelerator Server.msi
Size(Bytes)	5,346,816

クライアントコンポーネント

Windows ベースクライアント端末上にインストールするクライアントコンポーネントのスペックを下記表 2 に記載します。

表 2. Windows ベースクライアントインストーラ(MSI インストーラ)

コンポーネント	VDA クライアントインストーラ
Version	1.5.2.14
Build File Name	WYSE Virtual Desktop Accelerator Client.msi
Size(Bytes)	4,589,568

インストールに関して:

本リリースのインストールに関する注意事項に関して下記に記します。

前提条件

Windows XP Professional へのサーバーコンポーネントインストールに関しては、Microsoft KB956072 のインストールが必須となります。本モジュールが、Windows XP Professional 上に存在しない、Wyse VDA サーバーインストーラを起動時に、下記警告画面を表示します。[OK]ボタンをクリックすることで、KB956072 が Windows XP Professional 上にインストールされます。



Wyse VDA では、新しい暗号化の仕組みを導入しているため、サーバーコンポーネントインストール時に下記警告画面が出力されます。本警告は、RDP のデフォルト暗号化レベルを変更するもので、暗号化を解除するものではありません。VDA サーバーコンポーネントをインストール際には、本警告画面において、[OK]をクリックして、インストールを続行します。



サイレントインストール

Wyse VDA サーバーコンポーネントのサイレントインストールを実行したい場合は、下記の例に倣い、MSIEXEC コマンドから、VDA サーバーインストーラを起動してください。

```
C:¥> "msiexec /I "Location of the VDA server msi" /qn+ Licensekey="XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX"
```

補足: LicenseKey=パラメータには、購入した製品ライセンスコードを入力します。

アップグレードインストール

Wyse VDA Server version 1.5 は、アップグレード機能が搭載されています。アップグレード時には、インストーラにある“Preserve VDA Configuration Settings”のチェックボックスにチェックを入れて、[Upgrade]ボタンをクリックします(下図参照)。下記にアップグレード時の条件を記載します。

アップグレード前提条件

- ✓ アップグレードは、Version 1.1.0.10 以降がサポートされます。それ以前の旧バージョンは、一度手動アンインストールを実行してください。
- ✓ Wyse VDA Evaluation 版からの製品版へのアップグレードは、サポートされておりません。
- ✓ アップグレード時に、UAC 機能(ユーザーアクセス制御)を OFF にして実行する必要があります。
- ✓ サイレントインストールによるアップグレードは、サポートされていません。





対応プラットフォーム:

Wyse VDA (Virtual Desktop Accelerator)は、クライアント/サーバー方式のアプリケーションとなります。下記に対応プラットフォームと要件に関して記します。VDA 機能が搭載されている Wyse Thin OS シンクライアントには、クライアントコンポーネントのインストールは不要となります。

クライアントシステム要件

Wyse VDA サーバーコンポーネント(バージョン 1.1)は、下記の環境に対応しています。

対応ハードウェア^注

- **C クラスプラットフォーム:** C10LE(Wyse ThinOS), C90LEW (Windows Embedded Standard 2009), C90LE7 (Windows Embedded Standard 7)
- **V クラスプラットフォーム:** V10LE (Wyse ThinOS), V90LEW(Windows Embedded Standard 2009)
- **R クラスプラットフォーム:** R10L (Wyse ThinOS), R90LW/R90LEW(Windows Embedded Standard 2009), R90L7(Windows Embedded Standard 7)
- **X クラスプラットフォーム:** X90cw, X90c7
- **一般デスクトップ PC:** Windows XP, Vista, 7 等を搭載する通常の 32-bit デスクトップ PC

注意: 日本国内では、一部の製品は販売していません。また、今後販売予定の製品も含まれます(2011年3月現在)。

対応オペレーティングシステム

- Wyse ThinOS (V10LE, C10LE, R10L)
- Windows Embedded Standard 2009 (C90LEW, V90LEW, R90LW/R90LEW, X90cw)
- Windows Embedded Standard 7 (C90LE7, R90L7, X90c7)
- Windows XP Professional SP3(32-bit)
- Windows 7 (32-bit)

注意: 記載されている対応 OS は、Wyse 社での SOA 検証テストが実施されている製品/ファームウェアとなります。Wyse ThinOS への対応は、下位互換としてバージョン 6.5.x まで対応しております。ただし、Wyse ThinOS 側の修正が必要な場合は、最新の Wyse ThinOS バージョン(2011年3月現在、バージョン 7.0.113 以降)に対して修正が実施されます。

サーバーシステム要件

Wyse VDA サーバーコンポーネント(バージョン 1.5)は、下記の環境に対応しています。

対応オペレーティングシステム

- Wyse ThinOS (V10LE, C10LE, R10L)
- Windows Embedded Standard 2009 (C90LEW, V90LEW, R90LW/R90LEW, X90cw)
- Windows Embedded Standard 7 (C90LE7, R90L7, X90c7)



- Windows XP Professional SP3(32-bit/64-bit)
- Windows 7 (32-bit/64-bit)
- Windows Server 2003 SP2 (32-bit/64-bit)
- Windows Server 2008 (32-bit/64-bit)^注

注意: 本バージョンでは、Windows Server 2008 R2 は対応しておりません。次期バージョンでの対応を予定しております。

対応システム環境

- VMWare View 4.5 ^注
- Citrix XenDesktop 4.0
- Citrix XenApp 4.5 以降
- Windows Server 2003/2008 ターミナルサービス
- その他リモートデスクトップ接続を基盤とするシステム(ブレード PC/コネクションブローカ)

注意: VMWare View 環境では、リモートデスクトップ接続(RDP)の Direct Connection モードのみサポートされます。

対応ネットワーク環境:

Wyse VDA は、Wyse 独自の UDP プロトコルをベースとして動作し、遅延ネットワーク上の画面転送のパフォーマンスを向上します。Wyse VDA を適切に動作させるためには、利用するネットワーク環境に一定の品質(帯域、パケットロス等)が必要となります。Wyse VDA は、TCP ベースの ICA/RDP プロトコルの UDP 変換のため、必要なネットワーク帯域は、ICA/RDP 画面転送に必要なネットワーク帯域とほぼ同等です。Wyse VDA の対応するネットワーク環境に関して下記にまとめます。

対応ネットワークタイプ

- DSL (768Kbps 以上の帯域)
- E1
- T1
- T3

対応ネットワーク遅延

- DSL: 40msec 以上
- E1: 40msec 以上
- T1: 40msec 以上
- T3: 40msec 以上

対応パケットロス範囲

- DSL: 0%~1%
- E1: 0%~1%
- T1: 0%~1%
- T3: 0%~1%

ネットワーク環境に関する注意事項

Wyse VDA は、TCP ベースの通信プロトコルである画面転送プロトコル(ICA/RDP)を Wyse 独自の UDP ベースプロトコルによりデータ転送を行う技術です。UDP 通信により、従来の ICA/RDP(TCP ベース)とは異なる通信プロトコル/ポートをシステム環境内で利用することとなります。Wyse VDA では、データ通信のため、UDP Punch-Hole という仕組みを利用するため、システム環境内の通信ポートフィルタ(ファイヤウォール等のネットワーク機器設定)では、注意が必要となります。

Wyse VDA では、UDP Punch-Hole という仕組みで、クライアント→サーバーの UDP 通信ポートを最初に確立(Initial Communications Port)し、その後のデータ通信は、別のサーバー側 UDP 通信ポート(Available Session Port)でデータ通信を実行します(下記表 3.参照)。このため、一般的なネットワークポートフィルタリングにおいて、Initial Communications Port (デフォルト: UDP 3471 ポート)をクライアント→サーバー方向に開放しておけば、Wyse VDA 通信を確立することが可能です。但し、ポートフィルタリングの仕組みや、セキュリティ設定によっては、単純な Initial Communications Port の開放だけでは通信ができない場合があります。

Wyse VDA の UDP Punch-Hole の仕組みでは、最初の VDA 通信確立時に、Initial Communications Port (デフォルト: UDP 3471 ポート)を利用して、クライアント(UDP 動的ポート)→サーバー(UDP 3471 ポート)で UDP 通信を確立します。その後のデータ通信においては、Punch-Hole の仕組みにより、初期確立したクライアント側 UDP 動的ポートに対して、サーバー側 UDP ポート(デフォルト: 4000 以降)から UDP 通信を確立します。これにより、最初の通信で確立した通信(クライアント動的 UDP ポート)を利用して、サーバー側ポートが変更された形でデータ通信が成立します。ネットワーク機器によっては、この様な通信方式を設定上許可していない場合があります。Wyse VDA 利用時には、本ネットワーク通信の仕組みを理解して利用する必要があります。

表 3. Wyse VDA 通信ポート(コンフィグレーションツールにより設定可能)

ポート	デフォルト値	設定可能範囲	説明
Initial Communications Port	3471	1029~40000	初期ポート
Available Session Port	4000~	1029~40000	データ通信ポート

制限事項:

- ✓ 15 bit 色の画面解像度で利用する場合、特定の操作において、画面表示の一部がずれる場合があります。(TIR54889)
- ✓ TCX USB Virtualizer によってリダイレクトされた特定の USB ストレージデバイスが、VDA セッション内で、正常に動作しない場合があります。(TIR55001)
- ✓ VDA のクライアントモジュールをアンインストールした際に、HKCU 配下の VDA 関連のレジストリが残ります。(TIR55749)
- ✓ DEP 機能を ON に設定している場合、VDA を利用した RDP セッションにおいて、エラーメッセージを受信します。(TIR55423)
- ✓ VMWare View 環境において、連続 24 時間セッションをアクティブ稼働している場合、セッションが切断される場合があります。(TIR55106)
- ✓ Windows 7 プラットフォームにおいて、VDA サーバーモジュールインストール時、Windows OS の Firewall 設定の自動設定が実行されません(TIR54593)。
- ✓ Wyse VDA サーバーモジュールインストール時の KB956072 インストール警告画面において、一部のメッセージが文字化けします。